だれもが大切にされる学校　令和7年度 第１号4月

大庭小学校だより

HP はこちらから

文責：佐藤

１５１年目スタート！

誰もが大切にされる学校・社会のための自己選択・自己決定＋自己評価

学校長　佐藤です。今年で４年目、役職定年を控え最後の１年です。

毎年第１号では、なぜ「**誰もが大切にされる学校**」なのかを書いています。繰り返しですが、それは、子どもたちが創る未来が「**誰もが大切にされる共生社会**」であってほしいからです。子どもたちは、今ある社会に参加するだけではなく、未来の社会の創り手となります。その橋渡しをするのが学校であると考えています。学校が小さな社会として誰もが大切にされているのであれば、そこから巣立った子どもたちはきっと誰もが大切にされる共生社会を築いていってくれるでしょう。

学校が小さな社会として機能するためには、先生と子どもの縦と横の関係だけではなく、多様な人がそこにいて斜めの関係があるべきです。ふるさと教育のボランティアさんをはじめ、たくさんの大人に今年度も参画していただきたいと願っています。地域の方がいつも学校にいらっしゃる学校が理想です。

誰もが大切にされる社会では、誰もが自分の夢や志、目標の実現に取り組んでいるはずです。だから、大庭小学校では、自己選択・自己決定・自己評価を大切にしていきます。一人一人を大切にした選択肢のある教育を実現しようとするとこれまでよりもマンパワーが必要です。ところが、毎年のことではありますが、職員は十分な配置とはなっていません。全国的な教員不足です。この点でも、地域・保護者のお力添えをお願いしたいのです。具体的には、地域学校コーディネーターさんから、あるいは Tetoru などでお知らせします。 日々成長する子どもたちと接することは、きっと大人の皆様にとっても、得難い体験となると確信しています。

自己選択・自己決定ということは昨年度も大事にしてきたのですが、これに自己評価を加えました。自分の取組を評価し、自分の良さを伸ばし課題に取り組むことは、学びのサイクルを回していくためにとても大切であるからです。ルーブリックという自己評価を取り入れた学習方法にも続けて取り組みます。キャリアパスポートなど振り返りの時間の充実も図ります。自分をよくしていくには、まずは自分についての現状認識が必要ですから。

誰もが大切にされる学校は、子ども、保護者、地域の方、職員みんなで創っていくものです。今年度もすべての子ども、すべての関わる人が大切に、大切にされますよう願い、また誓いたく思います。

59名の1年生、全児童466名です。